

河野 太郎 防衛大臣 殿
佐川 詳二 百里基地司令 殿

1月30日緊急事態の実態を明らかにし、空対地射撃訓練の中止を求めます

1月30日(木)、三沢基地所属の第3航空隊第3飛行隊F2Bが、百里基地を離陸、36分後にそのうちの1機が油圧系統に不具合を確認したため『緊急事態を宣言』し、9時21分百里基地に緊急着陸したが誘導路上を移動しきれずに停止、消防車が出るなどの緊急体制が敷かれた。「しかし部外への被害や影響はなく、機体の損壊や搭乗者の被害もない」というのが、防衛省の回答です。

事故機は『くの字』の誘導路前を牽引されて移動し、滑走路等に漏れた油などを洗い流したため誘導路は閉鎖され、茨城空港の滑走路が使用されました。

しかし8時42分に離陸をしてから、9時18分に不具合を確認するまで36分あります。防衛省の回答が正しいなら、離陸して36分後に不具合を確認したことになります。通常の訓練では、戦闘機は離陸したのち1時間近くの訓練を経て百里基地に帰投することが通常でした。

信頼できる情報によると、「緊急事態」帰投3分前に不具合を確認したのではなく、離陸後海上に到着した頃に不具合が確認され、油を漏らしながら飛行を続けていたということが事実のようです。

飛行中にどうするか判断していたような形跡もあります。緊急事態発生は9時18分ではなくて、さらに前の時間になるとしか考えられません。

しかも百里基地への問合せには、「着陸時に事故が発生した」などと事実と違う回答をしています。

地域住民から連絡を受けた塩川鉄也国会議員事務所が、北関東防衛局を通じて防衛省に問い合わせたところ、上記の事案があったことを認めました。2月3日付けで「百里基地における不時のトラブルについて」と言う文書が、防衛省から塩川国会議員事務所に送られました。しかしこれは塩川事務所に知らせて来ただけで、「報道や国民に知らせることは考えていない」と発言したといえます。現に今に至るまで県や地元自治体への報告やマスコミへの広報等は一切なされていません。

防衛省は現地自治体の小美玉市とはトラブル等の報告について「協定」を結んでいます。油圧系統のトラブルは、一步間違えれば墜落事故などにつながりかねない重大トラブルです。「緊急事態宣言」もしています。しかし防衛省は「協定」を結んでいる現地自治体にさえも知らせる意志がないことを行動で示しました。事実でないことを回答したことも合わせ、絶対に許すことはできません。

記

1. 今回の「緊急事態宣言」を出した事故の原因究明と今後の対応策を明らかにすること。
「緊急事態宣言」の具体的内容を、県や地元自治体、さらに報道機関にも明らかにすることは防衛省の責任であり、早急に報道関係をはじめ関係する自治体へ情報を伝えること。
 2. 百里基地監理部から「模擬空対地射撃訓練を2月17日(月)から2月21日(金)まで百里基地上空で行う」と地元の小美玉市に連絡しているが、今回の「緊急事態」事故への納得できる報告や対策ができるまで、訓練は中止すること。
 3. 今月6日、B52と米戦闘機6機、空自45機が共同訓練を日本近海で実施しましたが、百里基地のF4も参加しています。戦略爆撃機との行動は専守防衛とは言えず、侵略性が強くアジアの緊張を高めるだけです。かかる訓練への参加をやめるべきです。
- 以上申し入れる。

百里基地反対連絡協議会
百里平和公園初午まつり参加者 一同